

おうち

第12号

2008.2

テーマ 「本との出会い」

特集 「本との出会い」

- ・アンケートの結果
- ・本との出会い 人とのふれあい
- ・子どもの成長と絵本
- ・「読み聞かせから学ぶこと」 総合教育センター所長 五味田 謙一

トピックス 子どもの緊急医療Q&A

掲示板

とちぎの幼・保・小連携 幼・保・小教職員相互職場体験研修

お知らせ

表紙絵「おかあさん

ありがとう」

井上

さん

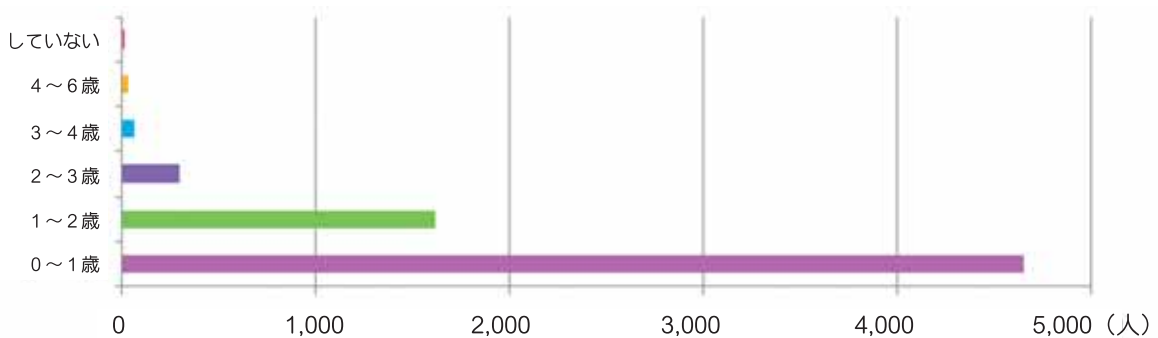
5歳

●アンケートの結果

今回は、幼児期の子どもがどのように本と出会うのか、保護者がどんな思いをもっているのか、「本との出会い」についてアンケートに答えていただきました。

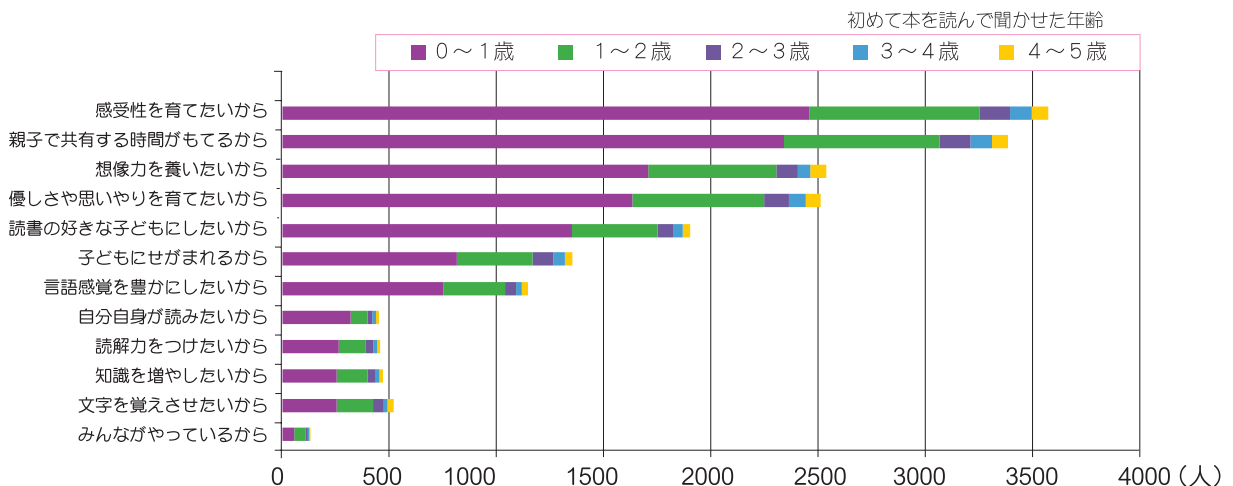
(対象：県内の3～5歳の子どもをもつ保護者 回答数：6,671件)

Q1.初めて本を読んで聞かせたのはいつごろですか。



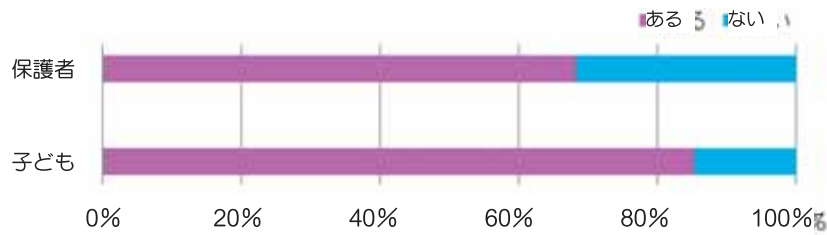
- アンケートに答えていただいたほとんどのご家庭で、2歳までに本を読んで聞かせているようです。子どもに本を読んで聞かせることを大切に思っているご家庭が多いことがわかります。

Q2.どんな思いで本を読んでいますか？(3つまで選択) (Q1で解答した年齢別)



- 「感受性」「想像力」「優しさや思いやり」などが上位を占めていることから、保護者が知識面よりも情操面を大切に思いながら本を読んでいることがうかがえます。
- 「親子で共有する時間もてる」という回答が2番目に多いことから、本を読んで聞かせることは親子でふれあう時間の過ごし方として大切であるととらえているようです。

Q3.お気に入りの本がありましたか？（保護者） お気に入りの本がありますか？（子ども）



●保護者、子どもともにお気に入りの本があると回答した割合が高く、特に9割近くの子どものお気に入りの本があります。乳幼児期から本と出会い、本を通じて親子でふれあう時間を過ごしていることも背景にあるのでしょう。

アンケートの結果からは、子どもの情操面を大切に、乳幼児期から本に出会わせている保護者の姿が見えてきます。ゆったりとした時間の中で、親と子が一緒になって本のストーリーや情景を楽しむことは、子どもにとって、とても大切なことです。そこには、本を読んでくれる人の柔らかくて優しい声、抱っこされたぬくもり、ストーリーと一緒に笑ったり悲しんだりするような、全身で感じる本の世界があるのではないのでしょうか。

わたしは、子どもにとっても、どのようにして子どもを教育すべきか頭を悩ませる親にとっても「知る」ことは「感じる」ことの半分も重要ではないと固く信じています。

子どもがである事実のひとつひとつが、やがて知識や知恵を生みだす種子だとしたら、さまざまな情緒やゆたかな感受性は、この種子をはぐくむ肥沃な土壌です。幼い子ども時代は、この土壌を耕すときです。（「センス・オブ・ワンダー」レイチェル・カーソン著 上遠恵子訳 新潮社）

アンケートの選択項目では伝えきれない「本との出会い」についての思いも、たくさん寄せていただきました。（自由記述より）

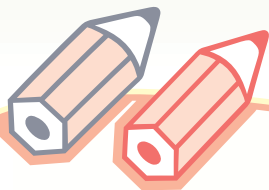
私が子どものころ、父が買ってくれた本を今でも持っています。父との思い出もあり、ずっと大切にしていきたいと思います。

最近、本を読んであげてを忘れていました。子どもが小さいころは、よく図書館に行っていたのですが……。また足を運びたいと思います。

忙しいときに「本を読んで」と言われると、ついつい「あとでね……」ゆとりをもって親子の時間を楽しみたいと思います。

寝る前の絵本タイムがお気に入りです。絵本の中身よりも、読んでくれるおとうさんとふれあう時間が好きなようです。

3人兄弟ですが、お気に入りの本が違ってたり、年齢とともにお気に入りが変わったりします。共通して大好きなのは、かこさとしさんの「からすのパンやさん」です。



★本との出会い 人とのふれあい★

栃木県総合教育センターでは、「本との出会い 人とのふれあい」をテーマに、小学生からお年寄りまで広く県民の方から募集した体験談を、冊子にまとめました。その中から、本との出会いがもたらした体験談をいくつか紹介します。



この他にもたくさん
の体験談が掲載されています。
「栃木県総合教育センター」
のホームページからご覧ください。

ほんがだいすき

わたしはほんがだいすきです。ほいくえんのころから、いろいろなほんをよんでいました。おかあさんもわたしがねるまえに、たくさんよんでくれました。

そのなかでも、『おむすびころりん』はおもしろくて、なんかいもよんでもらいました。しょうがつころにはいったら、きょうかしよにもでていたのでたのしくなりました。おんどくのしゅくだいがたときは、しつていたので、すらすらとよむことができました。

～ 中略 ～

わたしは、ほんをよんで、こころがあたたかくなりました。またよんでみたいです。

小学校一年生

本と私

本と私の最初の出会いは、生後六か月の時だったと母が話してくれました。本といっても動物や車がかかっているような小さな小さな絵本でした。本が大好きな子どもに育ってほしいという両親の願いで、このころから父が会社帰りに書店に立ち寄っては私の気に入るようなかわいい絵本をたくさん買ってきてくれたそうです。

～ 中略 ～

両親もよくひざの上に私を座らせては、本の読み聞かせをしてくれましたので、なおさら本好きになったのだと思います。絵本を読んでもらうことは、とても心地よく最高に楽しい時間でした。今思うと、その時間だけはいつもの日常とはちがう私だけの特別な世界があり、親とともに楽しみ、喜び合えることがきつとうれしかったのだと思います。

～ 中略 ～

世界の国々では、一冊の本も手にすることができない困難な状況にある子どもたちが大勢いる中、こうして本を自由に読む環境と本の素晴らしさを教えてくれた両親に心から感謝したいと思います。そしてこの気持ちを忘れずに、これからも読書が続けていきたいと思います。

小学校六年生

孫に読み聞かせをして

私の娘は子宝に恵まれ、二男一女を授かった。私にとって三人の孫は、生きる支えともなっている。孫たちには、豊かな心をもち元気にたくましく成長してほしいと願い絵本の読み聞かせをしてきた。

～ 中略 ～

二人の男の子は、成長に伴い動物や虫、乗り物の絵本が大好きになった。動物や虫の絵本は「かわいかわい」と一緒に手で撫でながら読んだ。戸外に出ると虫や蛙を追い駆け、捕まえては手の上に乗せて遊び「有難う。また遊んでね。」と言って草むらに逃がしてやった。

ある日、孫たちを連れて公園に行った。二人の男の子は、虫を追い駆けて遊び始めた。四歳の子は、バツタを捕まえて大喜び。逃げようとするバツタ、逃がすまいとする孫。そうこうしているうちにバツタは、孫の手に片足を残して逃げてしまった。その足を見て驚いた孫は、駆けてきたかと思うと私の胸に飛び込んで顔を埋めた。悪いことをしてしまったと思ったのだろう。私は、黙って頭や背中を撫でた。そばで見ていた娘が「これからは気をつけようね。」とやさしく言うと、孫はほっとしたのか、また虫を追い駆けて遊び始めた。

～ 後略 ～

女性

★子どもの成長と絵本★

子どもが最初に出会う本は、きっと「絵本」。この出会いは、その子の心をどれほど潤すことでしょうか。でも、「どんな絵本を選べばいいかわからない。」「こんな読み方でいいのかな・・・。」といった悩みもあると思います。そこで、幼児教育センターが過日開催した研修会での児童文学者 斎藤惇夫先生のご講話を参考に、絵本の与え方やおすすめの絵本について紹介します。

本を生涯の友とする 子どもを育てるために

人が本好きになるかどうかは、その人が幼い頃にどんな本と出会うことができたか、ということにかかってきます。

子どもがうれしくて楽しくなってしまう絵本を読んでやってください。

子どもが本を好きになるかどうかは絵本の中で味わった楽しみの量によります。

昔話は、物語の宝庫、人間の心を説く鍵です。

絵本の読み方に技術はいりません。心をこめて読んであげればそれで十分です。

子どもが人として生きていくためには、親（大人）の抱擁と笑顔と語りかけをたっぷり経験しておかなければなりません。

斎藤先生は、「子どもたちのためにどんな本を選び、どんな絵のついたどんな詩や物語を読んでやるかということは、最終的には絵本や物語を伝える側の人間の豊かさの問題である。」とお話しになっています。おとうさん、おかあさんを始めとする私たち身近な大人が自分自身を豊かにすることで、絵本の素晴らしさを伝えることができる・・・ということなのですね。

★おすすめの絵本★



「ちいさいおうち」
バージニア・リー・バートン
岩波書店

「もこもこもこ」 谷川俊太郎 文研出版
「だるまちゃん と てんぐちゃん」 加古里子 福音館書店
「もりのなか」 マリー・ホール・エッツ 福音館書店



「つるによぼう」
矢川澄子再話 福音館書店

「ひとまねこざる」 H・A・レイ 岩波書店
「のはらうた」 工藤 直子 童話屋
「三びきのやぎのがらがらどん」 マーシャ・ブラウン 福音館書店

読み聞かせから学ぶこと



栃木県総合教育センター所長 五味田 謙一

保護者の皆様には「おうち」をご愛読いただきまして、ありがとうございます。親と子のふれあいに関する情報を提供するとともに、アンケートを通して皆様にも紙面づくりにご協力をお願いしております。双方向性の広報としての認知度が高まり、「読んでいますよ。子育てのヒントにさせてもらっています。」とのうれしい話をお聞きします。

最近になって、若者の活字離れがささやかれていますが、本県においては「朝の10分間読書」などの取組が定着しており、小学校においては90%を超える割合で実施しています。授業が始まるまでの時間帯に、子どもたちが自分で選んだ好きな本と向き合うことによって、落ち着いた気持ちで学習に集中できるという効果があると言われています。また、43年ぶりに再開された全国学力調査で、本県の子どもたちが読解力の分野で全国平均を上回る成績であったのは、読書活動による成果ではないかとの評価もされています。

文字に慣れ親しんでいない幼児期には、保護者の皆様やご家族、ボランティアなどによる「読み聞かせ」が本との出会いになると思います。興味をもちそうな絵本などをタイミングよく与え、大人たちが読み聞かせてやることによって、子どもたちの夢は一層ふくらみます。ボランティアに関わっている方に、「ス

ーホの白い馬」というモンゴルの民話を題材にした絵本を読み聞かせていたときの話を聞いたことがあります。「子どもたちはストーリー展開に心

をうばわれ、話の続きが待ちきれない様子でした。そのなかの一人の子はこの民話を知っており、お友達に話したいようでしたがじっと黙って最後まで聞いていたのを覚えています。自分の心の中で、本と向き合う時間をもう一度つくって、内容を深めていたのではないかと想像し、このような物語に集中できる子どもを育てたい」と考え、活動をしていることです。

大きなニュースにはなりませんでしたが、12月9日付の記事に「まんが日本昔ばなし」復活を求める声相次ぐというのがありました。1975年から延べ952回にわたって放送されて人気のあった番組でしたが、その後再放送されたものの、視聴率の低迷などで放送は終了しています。「子どものころ見たものを自分の子どもにも見せたい。幼いころの思い出が詰まっており、後世にもぜひ残してほしい」との要望が出されているとのことですが、少子高齢化のなかで、子ども向けのものが衰退しており、復活はむずかしいようです。社会の変化にともなって失われてしまうものもありますが、子どもたちに伝えたいものを大切にしたいものです。

子どもたちの探究心は旺盛で、新しいもの、ふしぎな世界に飛び込もうとする意欲にあふれています。本との出会いを待ち望んでいるその時を逃さずに、大人たちが手を差し伸べていたら、その後の人生はさらに豊かになる可能性を秘めています。読み聞かせから学ぶこと、本との出会いを大切に、子どもの夢を大きく育てることを期待しています。



Q. 子どもが急に病気になったときやけがをしたときの、上手なお医者さんのかかり方を教えてください。

A. お医者さんにかかるときは、できるだけ医療機関のスタッフがそろっていて、より充実した診療が受けられる**通常の診療時間内**に受診するよう心掛けてください。また、何でも相談できる「**かかりつけ医**」を持つよう普段から心掛けておきましょう。

夜間や休日で心配なときには、「**とちぎ子ども救急電話相談**」で経験豊富な看護師さんのアドバイスを受けることも一つの方法です。

○とちぎ子ども救急電話相談

☆お父さんの急な病気やケガで心配なときにご相談ください。経験豊富な看護師が相談に応じます。

☆電話番号 【028 - 600 - 0099】

携帯電話、プッシュ回線の場合は【# 8000】

☆相談時間 【毎日 / 19 : 00 ~ 23 : 00】

Q. 夜間や休日に子どもが熱を出してしまいました。救急医療機関を受診したいのですが受診する際のポイントを教えてください。

A. まずは、慌てずに症状を確認し、お医者さんに正確に説明できるようメモなどをとるようにしましょう。

地域の休日夜間急患センターや在宅当番医を確認し、電話連絡をした上で行くようにしましょう。

なお、休日夜間急患センターや在宅当番医は、**県のホームページ**や市町の広報、新聞などで確認できます。普段から確認しておくくと便利です。

○とちぎ医務情報ネット

☆病院や診療所を利用する上で役立つ情報を提供します。

☆休日や夜間における休日夜間急患センターや在宅当番医の実施状況、連絡先を確認できます。

☆ホームページ

<http://www.qq.pref.tochig.jp/>

☆モバイル版

<http://www.qq.pref.tochig.jp/kt/>

掲示板

自由意見で寄せられた声です

掲示板を読むと同感することが多く安心します。子どもに何をしてやればいいのか、ヒントをもらえたように思います。

「おうち」を初めて読みました。

これからも発行されるたびに読みたいと思います。いつ、どこで手に入るのですか？



ありがとうございます。「おうち」は、年2回発行しています。県内の3～5歳のお子さんをもつ保護者を対象に、幼稚園・保育所等を通じてお手元に届くようになっています。下の欄をご覧ください。

小学校以上の子が入学して幼稚園とのギャップを感じました。低学年を受け持つ先生には幼稚園や保育所をよく理解してもらう機会はないのでしょうか。



県の施策として「とちぎの幼・保・小連携」を行っています。次ページをご覧ください。

基本的なこと、当たり前なこと、身近なテーマが取り上げられていて、いつも気持ちを改めて読んでいます。アンケートはためになり、自分と世間の違いがわかります。

「おうち」は、栃木県教育委員会の幼児教育部門である「幼児教育センター」が、子育てをしている方々へ、子どもについての情報を提供するために発行しています。

バックナンバーはホームページで読むことができます。(次ページ参照)

また、表紙の絵やカット、子どものつぶやきなどを随時募集しています。

★アンケートのお願い★

次回テーマ「自然とのかかわり」

みなさんのご家庭では自然とのかかわりをどのように考えているのでしょうか。ご意見をお寄せください。

「おうち」は皆さんの声で構成する広報紙です。

ぜひ、ご協力ください。アンケートは幼稚園・保育所にお出しく下さい。直接、幼児教育センターへお出しいただくことも可能です。



とちぎの幼・保・小連携

② 幼・保・小教職員相互職場体験研修

前回から掲載しているこのコーナーでは、幼児教育センターの事業である幼稚園・保育所・小学校の連携（以下「幼・保・小連携」）について話を進めていきます。「幼・保・小連携って一体、何のこと？」という方も多いのではないのでしょうか。簡単に言えば、「幼稚園・保育所・小学校の先生たちが協力し合って子どもの育ちを支えよう」というものです。今回からその取組を具体的に紹介します。

幼・保・小教職員相互職場体験研修は、幼・保・小連携の推進の中心となるものです。平成14年度にスタートし、今年度で6年目を迎えました。

具体的には、小学校と近くの幼稚園・保育所が協力し、互いに教職員を相手方に派遣し職場体験をします。登園・登校から降園・下校まで子どもたちとともに生活し、その後も先生方と一緒に職務を行います。一緒に保育や授業を計画・実践しそれについて園や学校全体で話し合いをします。

研修を終えた幼稚園・保育所の先生方からは、「小学校の様子を見ることで幼児期に育てておきたいことがわかった。」、小学校の先生方からは「幼児が遊びの中でルールや人とのかかわりなど、様々なことを学んでいることがわかった。」などの感想が寄せられています。

子どもの学びをつなぐため、笑顔をつなぐため、幼稚園・保育所・小学校の先生方が意欲的にこの研修に参加してくださっています。

たくさんの思い出を作った大好きな幼稚園・保育所の先生と、大きな夢を抱えて入学する小学校の先生とが、同じ思いで自分を見つめはぐんでくれるとしたら、子どもはどれほど嬉しいことでしょう。

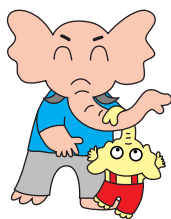
もしかしたら、「今日ね、学校の先生が来てすごくおもしろい本読んでくれてね・・・。」などという話を耳にするかもしれません。そのときには、「あっ、幼・保・小連携のことだな。」と思い出してください。幼稚園・保育所・小学校、そして家庭が連携・協力することで、この取組が一層充実したものになると思います。ご協力をお願いします。

幼稚園の先生と飛行機を作ったよ。



【県内の小学校で】

お知らせ



家庭教育ホットライン（保護者専用）

保護者の皆さん！お子さんの育児、子育て、しつけ等家庭教育のことや友達、いじめ等対人関係のことなどで困っていること、悩んでいることはありませんか？

秘密は絶対に守ります！一人で悩まず気軽に御相談ください！

TEL 028 (665) 7867

受付時間 毎日午前8時30分から午後9時30分まで

【午後9時30分～午前8時30分までは留守番電話・FAX（電話番号と同じ）で対応】

栃木県教育委員会

とちぎテレビから

とちぎテレビ番組「とちぎ教育新事情」の御案内

「おうち」第12号に関するテレビ番組を下記のように放映しますのでご覧ください。

日時：平成20年3月23日（日） 10：10～10：30

再放送：平成20年3月24日（月） 12：05～12：25

内容：「本との出会い」

家庭教育広報誌「おうち」第12号

平成20年2月発行

発行者 栃木県幼児教育センター

〒320-0002 宇都宮市瓦谷町1070

TEL 028-665-7215

FAX 028-665-7216

e-mail : yokyo-c@tochigi-edu.ed.jp

URL : <http://www.tochigi-edu.ed.jp/center/youji/>

新しいアドレスです。

★アドレスが2月16日から新しくなりました。